

## 農学委員会 農学分科会（第21期・第1回）議事要旨

日 時：平成21年1月27日（火）13:30～15:30

場 所：日本学術会6階 6-A(2)会議室

出席者：伊藤、上田、大杉、三枝、白石、高垣、柘植、夏秋、野並、桃木、矢澤、  
小川（事務局）

（欠席者：一井、奥野、杉浦、武田、中西、森田）

議 題：

- （1）委員長、副委員長、幹事の選出
- （2）「日本の展望」について
- （3）その他

議事要旨（敬称略）

1. 議事に先立ち、委員の自己紹介を行った。
2. 資料に基づき、矢澤第二部会員（農学分科会世話人）から、第21期日本学術会議の組織・運営、その中での農学委員会ならびに農学分科会の役割、活動等について概要説明があった。
3. 互選により農学分科会委員長に大杉立（連携会員）、副委員長に矢澤進（会員）を選出した。幹事として、委員長より野並浩（連携会員）、柘植尚志（連携会員）の指名があり、承認した。
4. 矢澤会員から新たに設置された「日本の展望委員会」の概要と本委員会がとりまとめる「日本の展望—学術からの提言（仮題）」への農学委員会の対応について説明があった。
5. 大杉委員長から、農学分科会の「第20期における分科会活動の総括（報告）」について説明があった。
6. 大杉委員長から、全国大学附属農場協議会と共催で計画している食育に関する公開シンポジウム（5月8日開催予定）について説明があり、承認した。
7. 矢澤会員からの第21期日本学術会議についての説明も踏まえて、農学分科会の役割、今後の活動方針等について、以下の議論を行った。

### ・農学分科会の役割

第二部の農学分野の委員会として、農学委員会と食料科学委員会が設置され、農学分科会は農学委員会に所属することになったが、分科会委員の専門分野、取組内容などから食料科学委員会がより適当ではないかとの意見が出された。今後、必要に応じて食料科学委員会とも連携しながら活動することとした。なお、食料科学委員会に設置が予定

されている組換え食品の安全性に関する分科会（課題別分科会）には、大杉委員長と三枝委員が参加することとした。

・第 21 期の取組

「日本の展望委員会」がとりまとめる提言への対応について議論した。農学は、農業と科学をつなぐ学問として、食料問題、環境問題、エネルギー問題への総合的な対応が求められており、本分科会としては、人材育成（教育）を含めた農学の長期的・総合的な展望についてとりまとめることとした。「第 20 期における分科会活動の総括（報告）」にすでにその内容が盛り込まれていることから、分科会としての原案作成を大杉委員長に依頼した。

第 20 期から継続して、組換え作物・食品についての議論を進めるとともに、2006 年 12 月に「有機農業の推進に関する法律（有機農業推進法）」が成立したことを踏まえて、有機農業についても情報収集し、循環型・環境保全型農業としての有機農業の位置づけ、その科学的検証、有機農業と組換え作物との関連などについて議論を進めることとした。次回分科会では、有機農業推進法に係る農林水産省の担当者、大学の有機農業研究者に話題提供を依頼することとした。

・次回以降の会議予定

第 2 回分科会を 4 月中旬に開催し、「日本の展望委員会」への対応について議論するとともに、有機農業に関する情報収集を行うこととした。

第 3 回分科会を 5 月 8 日午前に開催し、午後には全国大学附属農場協議会との共催で食育関連の公開シンポジウムを日本学術会議会議室で開催することとした。

以上